

●(資料)2016年度国公立大学推薦・AO入試小論文の概要

大学名	学部名	学科名	ジャンル	テーマ	課題	出題形式
旭川医科大学	医学部	医学科	医療	日本における食品中、大気中、水道水などの発がん物質の基準値の決め方	課題形式	
小樽商科大学	商学部	—	情報	ネットで進む人間に関する情報取得と人間に働きかけるサービス流通プラットフォーム化	課題形式	
弘前大学	医学部	保健学科 (看護学)	医療	生活習慣病の最大リスク要因である高血圧の原因と食塩摂取必要量との関係	資料型	
	農学生命科学部	分子生命科学科 地域環境工学科	科学技術 経済	生命科学各方面に研究分野を広げる農芸化学と遺伝子組替作物のメリット・デメリット 農業・農村のもつ農産物供給機能以外の多面的機能を維持・保存するためのアイデア	課題形式 資料型	
岩手大学	人文社会科学部	—	情報	情報の良し悪しを選別することの重要性と求められる具体的選別基準	課題形式	
	教育学部	—	教育	学校での重大事故防止に必要とされる、従来の視点や発想を変えた安全教育対策	課題形式	
山形大学	医学部	看護学科	医療	体内時計システムを乱す社会的時差だけの慢性化と多様な疾患との関係	課題形式	
	農学部	食料生命環境学科	科学技術 医療	「官の技術」で消滅した日本農業の真髄の重要性と求められる「民の技術」の再生 健康寿命延伸と食生活・サプリメントとの関係で考える機能的表示食品導入の利点と課題	課題形式 課題形式	
福島大学	経済経営学類	—	国際	他の先進国と異なる日本の外国人受け入れ政策の実態と求められる現実的改善策	課題形式	
	行政政策学類	—	思想文化	社会の「集団化」現象をもたらした諸要因と望まれる「他者に対して優しい社会」の構築	課題形式	
茨城大学	人文学部	人文コミュニケーション学科	経済	人々の消費量と競争を評価基準にする現代文明が世界にもたらした深刻な影響	課題形式	
埼玉大学	教養学部	—	国際	文化や社会に関する行動規範の異なる外国人と共生することの難しさと克服課題	課題形式	
	経済学部	—	経済	先進国に共通する「過剰による貧困」という新たな逆説的事態と求められる現実的解決策	課題形式	
東京医科歯科大学	医学部	保健衛生学科 (看護学・検査技術学)	医療	科学的裏付けのないマルチビタミンの「効用」とバランスの取れた食生活の優位性	課題形式	
	—	—	医療	心を病む人々との出会いと挫折の繰り返しの中から紡ぎ出された「ケアの営みの真髄」	課題形式	
東京工業大学	工学部	第6類B	科学技術	世界の自然災害においてその被害の半分以上を占めるアジア地域の災害リスク諸要因	資料型	
横浜国立大学	教育人間科学部	学校教育課程 (地域枠)	教育	米国の「教え込み」教育と異なる日本の「しみ込み型」教育の文化的特徴と優位性	課題形式	
	経営学部	—	経済	米自動車産業経営者が否認した、製品のもつ2つの基本的属性と消費者期待の変化	課題形式	
新潟大学	人文学部	—	思想文化	両立しない主張を含む「ことわざ」が存在する理由とこれらが用いられる状況の想定	課題形式	
	経済学部	—	経済	戦後日本を特徴づけた経済成長の歴史的経緯と人々の生活満足度の変化との関わり	課題形式	
—	理学部	自然環境科学科 化学科	科学技術 科学技術	遺伝子組換え作物がもたらす社会的な恩恵と問題点 自然界を人間の感覚を通じて認識する現代科学の方法論的特徴とその限界	課題形式 課題形式	
	富山大学	人間発達科学部	国際	日本への外国人旅行者を増やし日本の若者の海外旅行を増やすために必要な対策	課題形式	
—	—	—	思想文化	「コミュニケーション」という言葉の意味をめぐる歴史的変容と今日的・特徴的課題	課題形式	
	医学部	看護学科	社会福祉 医療	高齢者の親の世話をめぐる日本の高校生の意識調査結果で考える社会福祉的課題 医療者に求められる、死の避けられない患者への当事者的な理解と想像力	資料型 資料型	
山梨大学	教育学部	学校教育 (言語教育)	教育	アメリカと日本で異なる外国語教育方法と理想的授業のあり方	課題形式	
	医学部	看護学科	教育	企業と学生で選択が異なる、社会で活躍するために必要な能力要素	資料型	
信州大学	教育学部	学校教育 (国語教育)	教育	「自信をもって振る道具をひとつあげよ」という質問が優れている具体的・本質的意味	課題形式	
	医学部	保健学科 (看護学)	医療	子どもの頃の読書量と最終学歴・年収・自己肯定感との関係で考える、読書の意義と効力	課題形式	
岐阜大学	地域科学部	—	医療	小児病棟での読書療法で学んだ、絵本の力と場の力をもつ文化的・社会的な意義	課題形式	
	医学部	医学科	思想文化 社会福祉 医療	看護師が定着可能な看護環境を実現するために取組むべき重要課題 文化財のもつ社会的価値と文化財を活かした地域づくりのあり方 待機児童問題で考える、日本の社会福祉政策の貧しさと母親観・育児観の問題点 同時期に実施された日本の医療に対する評価調査結果に現れた乖離に関する考察	課題形式 課題形式 課題形式 課題形式	
—	—	看護学科	医療	人間ドック検査結果と精密検査結果の相違について医師に求められる説明のあり方	課題形式	
	応用生物科学部	応用生命科学課程、生命環境科学課程	環境 科学技術	日本社会に広がる投資熱の風潮の中で失われる人間的・文化的な豊かさ 地球生態系の純生産量とバイオマスの大きな変化が人間社会に及ぼす負の影響と解決法 DNAの構造と機能が明示する生命特有のダイナミズムの存在	課題形式 課題形式	
滋賀大学	教育学部	(共通小論文)	教育	人々の日常生活に浸透する、競争原理で人を選別・選抜する社会の学校化の功罪	課題形式	
	—	初等教育 (教育文化) (学校心理) (環境教育)	教育	日本社会における協同教育システムの崩壊と幼児教育産業の繁盛との関わり	課題形式	
和歌山大学	経済学部	—	国際	算数での子どものたちの間違った考えを正すために必要な効果的教え方・学ばせ方	課題形式	
	—	初等教育(社会)、中等教育(社会)	国際	地域独自文化の多様性を支える生物の多様性との関係で考える、持続可能な社会の実現	課題形式	
鳥取大学	地域学部	地域文化学科	法・政治	途上国における基礎教育普及の重要性と求められる国際協力の課題の共有	課題形式	
	—	地域環境学科	経済	直接民主主義制との関係で検証すべき、強いリーダーを求める首相公選制導入の是非	課題形式	
—	—	地域教育学科	思想文化	社会の現状を分析する道具としての経済学が果たすべき今日の役割	課題形式	
	—	地域政策学科	国際	近代日本の油絵の歴史で考える、日本社会における個性のあり方と文化的特徴	課題形式	
島根大学	法文学部	社会文化学科	法・政治	既存社会の革新を志向する社会力という新しい概念の文化的重要性	課題形式	
	医学部	看護学科	情報 情報	外国人受入れをめぐって問われる、排除の論理と区別された共感のモラルの評価基準 「最大多数の最大幸福」という政治的スローガンの思想的原理と問題点 メディアが伝える情報やイメージを形作る社会的諸要素とメディアリテラシーの必要性	課題形式 課題形式	
—	—	—	医療	実生活で人の頭の良さを規定する、知識を知恵に変換する問題解決能力	課題形式	
—	—	—	医療	終末期療養場所に関する現状と在宅療養を希望する人々に必要な支援策	資料型	

※次ページに続く

# 2016年度国公立大学推薦・AO入試小論文 受験生の当事者性が問われる 社会的テーマ課題の広がり

速報

求められる日本の戦後政治経済の変容プロセスへの理解

入試小論文には現在進行中の社会問題を多様な切り口から扱う出題が多い。今回はどのような特徴や傾向が見られるのかを探ってみよう。

資料は、2016年度の国立大学の推薦・AO入試小論文問題の概要表である。例年と同様に、各大学の学部・学科別の出題内容に関する情報をジャンル、テーマ課題、出題形式で分類し、国立大を先に公立大を後に記し、出題内容が数式問題や英文課題文のもの、出題形式がテーマ型のものを予め省略した。全般的傾向として、各ジャンルの学問領域に関する基本的理解を確かめる従来型出題がある他方で、今回は、受験生世代に密接に関わるテーマ課題を扱う

出題が増加している。そして、それらの出題では日本の戦後社会の経緯や変容への理解に照らして社会問題を考えさせようとしているのが特徴的と言える。学校教育で現代史・戦後史を十分に学ぶ機会を得なかつた受験生世代に、よりの確かな考察視点を提供する試みかもしれない。こうした理解を踏まえて、各ジャンルのテーマ課題を分類整理する方向で分析を行いたい。

（経済ジャンル）  
最初に取り上げる経済ジャンルでは、テーマ課題の傾向はおよそ3つに分類できる。  
第一は、経済学という学問に対する基本的な素養や理解を測るものである。例えば、「現在の現状を分析する道具としての経済学が果たすべき今日の役割（和歌山大学・経済学部）」「個人や企業の行動・意思決定を規定する『機会費用』という経済学的概念」（広島大学・経済学部）などがある。

第二は、ここ数年の特徴的テーマ課題である、若者や女性を対象にした貧困問題、雇用問題の現状認識を測るものである。「ブラックバイト問題を生じさせる社会的・経済的な諸要因と解決策の方向性」（大分大学・経済学部）「重層的困難を抱える現代の若者の不安定就業問題と求められる支援策の方向性」（県立広島大学・人間文化学部）「子育て中の日本女性の厳しい就労環境と女性の社会的役割の根本的制約との関係」（北九州市立大学・文学部）などがある。

そして第三は、現在に至る日

本の戦後経済のプロセスについて検証や再認識を求めるものである。「戦後日本を特徴づけた経済成長の歴史的経緯と人々の生活満足度の変化との関わり」（新潟大学・経済学部）「戦後日本における両翼の中間層の安定的存在を破綻させた諸要因と対応策の必要性」（北九州市立大学・経済学部）「日本社会に広がる投資熱の風潮の中で失われる人間的・文化的な豊かさ」（岐阜大学・医学部）などがあげられる。

## （法・政治ジャンル）

このジャンルのテーマ課題では、現政権の改憲動向とも関わる法的問題や行政運営のあり方に関するものが目を引く。

憲法など法律的な問題については、「直接民主主義制度との関係で検証すべき、強いリーダーを求める首相公選制導入の是非」（和歌山大学・経済学部）「少年法成立の歴史的経緯と法的目的との関わりで考える、適用対象年齢引き下げの是非」（北九州市立大学・法学部）などがある。行政運営のあり方をめぐって



で、「米国の『教え込み』教育と異なる日本の『しみ込み型』教育の文化的特徴と優位性」(横浜国立大学・教育人間科学部)「算数での子どもの間違った考えを正すために必要な効果的教え方・学ばせ方」(滋賀大学・教育学部)などがある。

第二は、いじめや学力低下など、日本の学校教育の抱える諸問題について考えさせるもので、「いじめの構造を根拠付ける四つのキーワードで考える、いじめをなくす具体策」(岡山大学・歯学部)「日本の『学力問題』を構成する学力低下と格差の実態、学力の質をめぐる諸問題」(広島大学・教育学部)「日本の学校教育を特徴づける『勉強グセ』がもたらした弊害と『問う力』育成の重要性」(九州大学・教育学部)などがある。

第三は、政治的な干渉や介入が強まる傾向にある高等・大学教育について考えさせるテーマ課題である。例えば、「利潤追求の経営論浸透で教育内容の転換を迫られる大学教育の現状」(静岡県立大学・国際関係学部)「個

人・社会の自由で適切な判断に必要な制度である『学問の自由』と大学の社会的任務」(長崎県立大学・国際社会学部)「主権者として民主主義を学ぶ重要な契機としての『18歳選挙権』と教育的課題」(宮崎公立大学・人文学部)などがある。

### 〈社会福祉ジャンル〉

このジャンルのテーマ課題もおよそ三つに分類可能である。

第一は、定番化している高齢者問題への理解を測るもので、「高齢者の親の世話をめぐる日本の高校生の意識調査結果で考える社会福祉的課題」(富山大学・医学部)「高齢者福祉対策として大都市在住高齢者の地方移住を推進する政策の是非」(大分大学・経済学部)などがある。

第二は、これも定番の、日本の家族観や幸福観についての理解を求めめるもので、「『親なるもの』を失った現代の家族の危機感と望ましい家族のあり方」(熊本大学・文学部)「人々の幸福感判断での重要項目を参考に考える、人間にとっての幸福な生き

方」(広島大学・教育学部)などがある。

第三は、子どもの貧困問題や待機児童問題を扱うテーマ課題で、戦後日本の社会福祉政策の足跡を振り返るなど、従来よりも問題意識の高さを感じ取れる内容の出題が増えてきている。

「待機児童問題で考える、日本の社会福祉政策の貧しさと母親・育児観の問題点」(岐阜大学・医学部)「貧困率に関する各種データで考える、日本の子ども」(岡山県立大学・保健福祉学部)「ドイツ社会との比較で考える、現代日本が子どもや老人を大切にしない方向に進む理由」(県立広島大学・人間文化学部)などがある。

### 〈環境ジャンル〉

概要表の数的制約から言えば、傾向を指摘するのは難しいが、原発の輸出や再稼働を現政府が強く推進する中、昨年度に引き続き、自然環境を汚染している原発問題に真摯に向き合う出題はなく、時代を逆行した感が

強い。地球環境と人間活動との関係についての理解を促すテーマ課題が大半を占める。

「地球環境を広く汚染し人体を様々に害する電子廃棄物問題の深刻さと対処策」(鳥取大学・地域学部)「マツとキノコ類の共生関係に被害をもたらした土壌環境を整える人間活動の消失」(秋田県立大学・生物資源科学部)「環境容量の視点で考える、日本の都市や町が抱える課題とその改善策」(京都府立大学・生命環境科学部)などである。

### 〈情報ジャンル〉

このジャンルのテーマ課題は、二つに分類可能で、一つは、ネットやメディアから得る情報との付き合い方について考えさせるもので、多数を占めている。

「情報の良し悪しを選別することの重要性と求められる具体的選別基準」(岩手大学・人文社会科学部)「メディアが伝える情報やイメージを形作る社会的諸要素とメディアリテラシーの必要性」(鳥根大学・法文学部)「情報と思考の整理に求められる段

階的抽象化・メタ化のプロセス」(香川大学・教育学部)などである。

もう一つは、企業のネット利用の進展状況とその問題点を扱うテーマ課題である。

「ネットで進む人間に関する情報取得と人間に働きかけるサービス流通プラットフォーム」(小樽商科大学・商学部)「新たな企業資産のパーソナルデータ収集・活用によるネットサービスのメリット・デメリット」(県立広島大学・経営情報学部)がある。

### 〈思想文化ジャンル〉

このジャンルのテーマ課題はおよそ三つに分類可能である。

第一は、言葉・文化・芸術に関する理解を測る定番のテーマ課題で、「両立しない主張を含む『ことわざ』が存在する理由とこれらを用いられる状況の想定」(新潟大学・人文学部)「近代日本の油絵の歴史で考える、日本社会における個性のあり方と文化的特徴」(鳥取大学・地域学部)などがある。

第二は、コミュニケーションについてのテーマ課題で、「コミュニケーション能力至上主義がもたらした文化的・階層的問題」(鹿児島大学・法文学部)などがある。

第三は、ここ数年来増える傾向にある特徴的テーマ課題で、3・11以降の日本社会の変容や歴史認識のあり方について考えさせるものである。「社会の『集団化』現象をもたらした諸要因と望まれる『他者に対して優しい社会』の構築」(福島大学・行政政策学類)「過去の歴史に向き合うために必要とされる、歴史における偶然と必然についての理解」(香川大学・経済学部)「時代で大きく異なる過去認識の私たちと近代以降に発達した歴史学の基本的枠組み」(京都府立大学・文学部)などがある。

### 〈国際ジャンル〉

最後に取り上げるこのジャンルでは、現在進行中の難民問題

と直接的・間接的に関わるテーマ課題が焦点化しており、内容的には2つに分類可能であろう。

一つは、難民問題に対応策含め直接的に扱うものである。「シリア難民問題で改めて明らかになった日本の『難民鎖国』政策の実態」(名古屋市立大学・人文社会学部)「難民の多発する背景と難民救済を問われる先進諸国における取組みの現状」(山口県立大学・国際文化学部)などがある。

もう一つは、難民問題を間接的に扱うもので、外国人受入れに問われる重要課題への理解を促すものである。

「他の先進国と異なる日本の外国人受入れ政策の実態と求められる現実的改善策」(福島大学・経済経営学類)「文化や社会に関する行動規範の異なる外国人と共生することの難しさと克服課題」(埼玉大学・教養学部)「外国人に対するステレオタイプなものの方と偏見・差別との関係、求められる解決策」(長崎県立大学・国際社会学部)などがある。

以上見てきたように、今回の入試小論文で扱われているテーマ課題には、国内外で危機感が深まる平和と民主主義の問題、劣悪な労働・雇用問題、若年層の貧困問題、少子化を決定づける政治経済的・社会文化的問題など、受験生世代の現実生活や将来展望と密接に関わるものが広がっている。

それゆえ、こうした危うさに対する危惧と批判の声が高まり、若者世代がその声の中心的主体として存在感を増している。さらに、全国の学者たちも声を上げ、若者世代との共同行動を積極的に担うまでに至っている。今後の入試小論文にこうした声や行動がどのように反映されるのか、見守りたいと思う。

(構成・文/佐藤明子)